



地球、この緑の島より
『UFOハンター』
田中光二
文藝春秋(文庫)
(12/25刊・¥320)

UFOハンターシリーズの第二巻目。

地球各地に「聖域」をつくった異星人たちが、ある日一斉に去っていく。そして、沈黙を守っていた聖域から使者が訪れる。主人公たちは、その使者と共に中部山岳地帯、禁断の領域へと踏み込むが、そこは宇宙樹の繁る別天地だった。

サイキックエネルギーを自在に操り、やがて高次の存在へと飛び立とうとする人類——
「たいていのSFファンなら『幼年期の終り』を思い出すだろう。人類の進化を手助けする宇宙人たち。旧人類との接触をこばむ新人類——共通項も多い。クラークは、次の段階へと進化していく人類を、全く異質のものと見なした。」

しかし、『未知との遭遇』に魅かれるという作者は、そう考えてはいない。異星人によって精神進化をうながされても、人間はやはり理解し合えるものなのだ。

『幼年期……』は、いまの我々からの断絶を伴う、非線形進化をはじめて描き出した。

だが、その非線形な精神進化も、田中光二が従来から主張してきた相互理解の観点から、問い直すことができるのかもしれない。(俊)